

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価 (4月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。 カリキュラム・マネジメントを推進し、協働的に課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。 特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の個に応じた進路実現のための教育課程編成と履修指導をとおして学習意欲を向上させる。 ②教科横断的授業をより深化させる。 総合的な探究の時間をとおして生徒の批判的思考力を育成する。 ③学校行事をとおして生徒の企画力と協働性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の実施に向けて、生徒の進路実現を図る教育課程を編成する。 進路との関連を重視した履修指導を充実させる。 指導と評価についての検討を始める。 ②育成する能力を定め教科横断的授業の実践と研究協議会を行う。 SDGsなど社会とのつながりを意識したテーマ研究となるように指導方法を検討する。 ③生徒が多角的な視点で学校行事を企画・運営できるように教員が支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路実現を図る教育課程を編成できたか。 履修指導を組織的に行い、学習意欲は向上したか。 指導と評価についての情報共有は進んだか。 ②教科横断的授業により目標とする力は育成できたか。 社会とのつながりを意識して生徒の批判的思考力が育成できたか。 ③生徒の企画力と協働性が高まり、多角的な視点を持つことができたか。 <p>(調査、アンケート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①発展的内容の科目設置、教科横断的な「理数探究基礎」の設置など、進路を広げ深める新教育課程を編成した。 オンラインでの履修ガイダンスを取り入れ、進路との関連を意識した履修指導を組織的に行った。 休校期間の学習指導・評価を組織的に行ったが、更に検討が必要である。 ②授業研究協議(11月)を行い教科横断的な科目での批判的思考力育成について協議した。 パートナー校交流はオンラインで実施した。 テーマ研究の中間発表でポスター発表を取り入れ他者とのつながりを意識させた。 ③各行事の目的に立ち返り、本質的に大切なことを生徒に確認させ、維持することと変革すべきことの検討を重ね企画運営を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新教育課程の年間指導計画を新学習指導要領の趣旨を踏まえて作成し学力向上・進路実現につなげる。 新旧課程が混在する2年間は履修指導の為に教員研修が重要である。 新学習指導要領に基づいて指導と評価のあり方を職員で研修し、年間指導計画に反映させる。 ②1年を通しての授業改善を工夫する。批判的思考力育成のための具体的な段階を計画する必要がある。 テーマ研究では外部連携を推進し探究を深める。 批判的思考力育成の客観的な評価方法を構築する。 ③感染防止の状況下で行った変革・変更をより良い形に向上させるように生徒を指導する。 生徒の力を発揮できる環境や場を引続き創出し、創造性と協働性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②科学技術の進歩により自然科学・社会科学・人文科学すべての分野の繋がりが急速に世界を動かす現状において、地球規模での視点を持つことが重要である。この点において、SDGsの理解は地球市民の持つ諸問題を横断的・総合的な繋がりの存在に気づくことができるため、個人・地域・国が協働的に課題解決に向かうことにつながる。 SDGs達成のためには、コミュニケーション能力が重要であり、国内外の人々との相互理解するために言語習得に力を入れてほしい。 他者を思いやる心、将来の人々の暮らしに配慮する心を持つ人材の育成につなげてほしい。 知識の理解の質をさらに高め確かな学力の育成が求められており、教師の実践力の充実が必要である。高校教育の目標や新指導要領の考え方を意識した授業実践の充実に期待したい。 能動的な知識獲得型学習態度への変容につながる教科指導・生徒指導の充実に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性をより伸ばさせ、個に応じた進路実現を図るため、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて、課題発見・解決に向かう教科横断的な広い視野と深い思考力を育成する新教育課程を編成した。 指導と評価の研究を全職員で進め、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた指導計画と授業改善を前に進める必要がある。 オンラインでの履修指導、学習指導などにより、生徒の主体的な学習と教員の効率的な業務運営を両立させた。 テーマ学習・研究の中間発表でポスター発表を取り入れた。さらに積極的な質問者となるような運営、指導が必要である。 批判的思考力育成を目標に授業改善を行ったが、単発的であったため、年間通して継続的に行うことが必要である。 生徒の主体的な活動について、新しい生活様式の中で生徒たちが模索しながら行い、各行事の目的や目標を再考する良い機会とすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の実施を踏まえて、評価と指導に関する研修を年間通して実施し、指導者と学習者を横断した研究を行う。 カリキュラム・マネジメントとして、教科・科目と総合的な探究の時間の学びを積極的に連携させる。 授業や生徒の主体的な活動において、課題発見・解決の能力を育成するため、外部連携を促進し、協働的に学び、思いや考えをもとに構想し、意味や価値を創造していく過程を大切に教育活動を行う。 テーマ学習、研究などえ、ポスターセッションや発表の構造的な指導を行い、課題への主体的なかわりと積極的な質疑応答を引き出す指導をしたい。 生徒の主体的な活動については、さらに本質的なありかたを考えさせ、企画運営を指導したい。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・支援の組織的取組を推進し、たくましく生きる力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒のセルフ・マネジメント力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に重点項目を設定してセルフ・マネジメント力を高める。 出席状況把握などをとおして課題を早期発見し、家庭と連携して支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の学校生活への意欲が高まったか。 課題を早期発見し、組織的に支援できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に項目を設定しての働きかけは行わなかった。生徒指導の手引をまとめた。 休校期間はICTを活用してのホームルームを努力目標としたが組織的取組に至っていない。 欠課を職員で共有する仕組みを作ったが機能は不十分である。 SC、SSWの活用は推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者懇談会を年度初めに統一して計画する。 欠課の把握を迅速かつ的確に機能させ支援につなげる仕組みを再構築する。 生徒指導と支援の連携、必要性の職員研修を実施し、組織として対応する。 ICT活用研修、活用を確実に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①欠課や不登校は神奈総に於いても深刻で困難な問題であると認識していますが、多様性がある神奈総だからこそ他校に先駆けて改善する工夫を期待する。 休学や校外活動での単位認定などを工夫し、時間がかかっても卒業できる寛大で多様な仕組みを広げてほしい。 悩みを抱えた生徒が埋没しないよう、支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導と生徒支援を両輪とするために、単位制における授業出席の情報を担任、年次、教科担当などで共有する仕組みを作った。円滑で効果的な運用については、さらに努力と工夫が必要である。 教育相談と授業欠席の規定を見直し、生徒にとってより相談しやすい環境整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導と生徒支援をつなぐ情報共有と、課題に対する支援、指導方法を研究しつつ、実践力をたかめていく。 教職員の研修を充実させていくとともに、自己マネジメント力育成のための生徒への指導を工夫していきたい。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(4月6日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。	①生徒の第一希望実現のため、進路指導の体系化と組織的指導を推進する。 ②自己目標実現に資するキャリア教育を充実させる。	①・3年間の進路指導計画を見直し、進路相談体制の強化、学習意欲の喚起を組織的に行う。 ・模擬試験を活用して、自己の学力を客観視させ、自己の学習方法改善につなげる。 ②新たな取組みとして合格報告会を実施する。	①・家庭学習の時間が増加したか。 ・模擬試験のフィードバックにより、自己の学習方法を改善することができたか。 ②合格報告会等をとおして、進路実現について考えることができたか。(アンケート)	①・自宅学習のための教材、進路情報等をClassroomに掲載しICT活用を進めた。 ・模擬試験の振り返りから自己の補強ポイントを知り学習方法を考える手立てにした。 ②・新たな取組みとして合格報告会及びキャリアパスポートによる振り返りを行った。 ・新規にミニ大学講演会を4分野で開催した。	①・学習時間と学力伸長の関係を検証する。弱点を補う学習ツールの活用促進を図る。 ・進路実現ロードマップ作成、模試結果の活用と面談を有機的に関連付け、面談内容を組織的に計画する。 ②・生きた情報提供を行うための方法を工夫する。 ・学問に興味をもてる大学講演会を実施する。	問題ありません。よく工夫されていると思います。	・3年間の進路指導計画を再構築し、生徒が自己の学力を客観的かつ定期的に把握し、学習意欲の継続と学力の向上に資するようにした。 ・大学等のミニ講演会を実施し、1年次から3年次まで主体的な参加を得た。学問に対する探究心をくすぐる内容を充実させたい。	・学習時間と学力伸長の関係を検証する。弱点を補う学習ツールの活用促進を図る。 ・進路実現ロードマップ作成、模試結果の活用と面談を有機的に関連付け、面談内容を組織的に計画する。 ・生きた進路情報を提供するための方法を工夫する。 ・学問に興味をもてる大学講演会を実施する。
4	地域等との協働	・教育資源を活用し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 ・家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	①・学びをとおして地域社会との協働を図る。 ・教育活動において、パートナーズと持続可能な連携を行う。 ②学校行事やテーマ研究等の学習活動で外部関係機関や地域と効果的に連携する。	①・生徒が参画し学びをとおして地域社会等との連携・協働を図る。 ・進路支援グループと連携して「進路を考える会」を実施する。 ②エキスパートレクチャーやフィールド発表会において外部と効果的に連携する。	①学びをとおして家庭、地域との協働ができたか。 ②外部との連携により教育的効果はあったか。	①・生徒活動としての地域連携は模索中である。 ・パートナーズとの連携はクラス懇談会、卒業式の動画撮影、アルコール液台制作などで協力いただいた。 ②エキスパートレクチャー、ワールドカフェ等はオンラインでの実施も含め予定通り実施し、生徒の気づきを誘発する教育活動ができた。	①生徒活動としての連携を計画し、できることから行動する。 ・進路関係、学習発表会(フィールド発表会)など学びの観点での連携を模索する。 ・生徒の英語力を生かした連携を検討する。 ②・テーマ研究で大学・企業・研究所等の専門家と連携し、より深い探究活動を指導する。	各分野で能力を発揮できる生徒はいるが外との協働に慣れていない。理解の遅い人、行動できない人など、世の中には様々な人が存在します。計画ありきでひと時の外部交流だけでなく企画立案段階から外部と協働体験ができることさらに良い。 ・地域社会との協働による幅広い経験は健全な未来社会を切り拓くための資質・能力を育成し、持続可能な社会の構築に大きく寄与する。様々な分野との交流の機会を創りその体験を通して横断的・総合的な判断能力を育成してほしい。	・パートナーズとの連携はクラス懇談会、卒業式の動画撮影、アルコール消毒液台制作などで協力いただいた。 ・エキスパートレクチャー、ワールドカフェ等はオンラインでの実施も含め予定通り実施し、生徒の気づきを誘発する教育活動につながった。 ・外部連携が不足している。	・生徒の主体的活動としての連携を促進し、できることから行動する。 ・進路関係、学習発表会(フィールド発表会)など学びの観点での連携を模索する。 ・生徒の英語力を生かした連携を検討する。 ・テーマ研究で大学・企業・研究所等の専門家と連携し、より深い探究活動を指導する。
5	学校管理 学校運営	・社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ・教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	①・ICT環境の整備を充実させ、生徒の協働的な学びを支援する。 ②生徒の視点に立って業務を見直し、仕事の効率化を図る。	①ICT環境整備、活用ルール作成、活用活性化を図る。 ②目的を同じくする教育活動の整理、閉庁日の設定、土日勤務の削減を図る。	①・ICT環境整備、ルール作成はできたか。 ・教員のICT活用が活性化されたか。 ・生徒の学びの支援となったか。 ②教育計画の整理、閉庁日設定、土日勤務の削減はできたか。	①・クロムブックの準備室整備、使用ルールの策定を行い、授業等で活用開始した。Zoomアカウントを取得し、パートナーズ活動に活用した。 ②感染防止を最優先に年間行事を見直さざるを得なかった。 ・年間計5日間の、閉庁日を設定、保護者対象進路説明会を平日に移し職員の仕事改革を進めた。	①・クロムブックの活用促進のため職員研修を行う。 ・Zoomとクロムブックを併用して授業等のライブ配信を研修する。 ②・教育計画の内容をより良くする取組みや改善検討を引続き行う。 ・クラス懇談会等パートナーズ共催の平日開催を促進する。 ・社会の変化に柔軟かつ迅速に対応するための研修、組織的運営を確実に推進する。	①ICT整備が目的ではなく、何のためにICT整備をするのかをさらに明確にすれば、必要な整備は端末なのか、WiFiルータなのか、アプリケーションなのか、人なのか、自ずと見えてくるはず。 ・オンラインでも対面でも、参加型となるよう工夫するとよい。ICT利用に焦点を当てすぎることなく、その意義と目的の明確化と効果検証が大切である。 ・学校改革は、着実に変化している世の中の流れや方向を敏感にとらえ、構造・スキル・マインド等総合的に実践してほしい。	・GIGAスクール構想でBYOD整備の教室のみならず、全館で使用できるよう整備した。 ・教員が心身ともに生徒の指導に全力を注げるよう、閉庁日、土日の行事軽減など働き方改革を鋭意進めている。	・効果的なICT活用の研究を進め、職員研修も充実させたい。 ・各教育活動の目的、目標を常に再考し、外部連携による教育力の向上と、生徒の思考力・行動力・協働性の向上を目指す。 ・クラス懇談会等パートナーズ共催の平日開催を促進する。 ・社会の変化に柔軟かつ迅速に対応するための研修、組織的運営を確実に推進する。